

全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

札幌市の令和7年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校児童(調査対象：6年生)についても、教科に関する調査の結果概要及び改善の方向と、生活習慣や学習習慣等に関する調査の傾向がまとまりましたので、お知らせいたします。今回明らかになった点を学校全体の課題として捉え、今後の教育活動に生かしてまいります。

◇生活習慣や学習習慣等に関する調査の結果

全国と比較して差異の大きな質問のうち、「肯定的な回答の多いもの」と「肯定的な回答の少ないもの」を載せています。

1.【基本的生活習慣等】 ○ほとんどの子が朝食を毎日食べている。 ○同じくらいの時間に寝起きしている子が多い。 ○健康に過ごすために、学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていると感じている子が多い。
2.【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】 ○自分には、よいところがあると思っている子が多い。また、学校で自分のよいところを認めてもらえていると思っている子が多い。 ○将来の夢や目標を持っている子が多い。 ○人が困っているときは、進んで助けていると思っている子が多く、人の役に立つ人間になりたいと思っている子も多い。 ○学校に行くのが楽しいと思っている子が多い。 ○友達関係に満足している子が多い。 △普段の生活の中で、幸せな気持ちになる子がやや少ない。
3.【学習習慣、学習環境等】 ○国語・算数・理科の勉強が好きだと思っている子が多い。また、国語と算数の勉強が得意だと思っている子も多い。 ○分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫できている子が多い。 ○ほとんどの子が、1日当たり30分～2時間以上勉強している。学校が休みの日にも同じくらい勉強している子が多い。 ○読書の好きな子が多い。1日当たり30分以上読書をしている子が多い。 ○PCやタブレットなどのICT機器で文章やプレゼンテーションを作成したり、情報を収集・整理したりすることができると思っている子が多い。 ○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進められると思っている子が多い。また、画像や動画、音声等の活用で、学習内容がよく分かると思っている子が多い。 △算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていると思っている子は少ない。 △学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進められると思っている子は少ない。
4.【主体的・対話的で深い学び】 ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思っている子が多い。 ○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思っている子が多い。 ○学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思っている子が多い。 △各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると思ってい

る子が少ない。 △学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思っている子が少ない。
5.【地域や社会に関わる活動の状況等】 △地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりしたと思っている子が少ない。 △地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う子が少ない。

◇学力調査の結果

全国の平均正答率と比較して、全国平均と同じものは「ほぼ同程度」、±3 ポイント以内の差のものは「全国平均と比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回る、やや下回る」、3.1 ポイント以上の差のものは「上回っている」「下回っている」としています。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
小学校 国語	□〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」 ・全国平均とほぼ同程度ものと上回っているものがある。 □〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」 ・全国平均より下回っているものがある。 □〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」 ・全国平均より上回っている。 □〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」 ・全国平均とほぼ同程度のものと下回っているものがある。	●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を裏付ける。	○集めた材料を整理したり、目的に応じて優先順位を考えたりするために思考ツールなどを活用した学習活動の充実。 ○話合いの展開や内容を踏まえ、意見を整理し、多角的な視点から自分の考えをノートなどにまとめる学習活動の充実。 ○書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、中心となる事柄を捉える学習活動の充実。 ○複数の資料を結び付けて読む学習活動の設定。それぞれの資料がどのような関係にあるのかを関連付けて整理する学習活動の充実。
小学校 算数	□「数と計算」 ・全国平均とほぼ同程度のものと上回っているものがある。 □「図形」 ・全国平均とほぼ同程度のものと上回っているものがある。	●角の大きさについて理解している。	○図形の辺の長さの大小と角の大きさの大小を混同することなく、辺の開き具合に

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
	る。 ・全国平均より下回っているものがある。 □「測定」 ・全国平均より下回っているものがある。 □「変化と関係」 ・全国平均とほぼ同程度のものと上回っているものがある。 ・全国平均より下回っているものがある。 □「データの活用」 ・全国平均とほぼ同程度か上回っている。 ・全国平均より下回っているものがある。	●はかりの目盛りを読むことができる。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。	着目して比べる学習活動の充実。分度器を用いて角の大きさを測定したり、核を作ったりする際には角の大きさの見当を付けることで、角の大きさについての感覚を培う学習活動の充実。 ○はかりにどのような数値が書かれているか、大小の目盛りがどのように等分されているかを考え、実際に測定する活動の充実。 ○表などを用いて、変化や対応の規則性を明らかにしながら、二つの数量の関係を捉えることができるようにする学習活動の充実。
小学校理科	□「エネルギー」を柱とする領域 ・全国平均より下回っているものがある。 □「粒子」を柱とする領域 ・全国平均より上回っているものがある。 ・全国平均より下回っているものがある。 □「生命」を柱とする領域 ・全国平均より上回っているものがある。	●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。 ●電気がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している。 ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。	○物の名前だけではなく、材質にも着目する学習活動の充実。 ○条件を制御して正確な比較実験を行い、結果や結論を図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けながら理解を深めていく学習活動の充実。 ○加熱をしなくても水が蒸発する場面を探したり、低い温度で水が蒸発する場面と沸騰で蒸発する場面との差異点や共通点を整理したりすることで、状態変化を概念的に理解していく学習活動の充実。 ○実物や画像と照らし合わせておしべやめしべの部位と

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
	ものがある。 ・ 全国平均より下回っているものがある。 □「地球」を柱とする領域 ・ 全国平均とほぼ同程度のものと上回っているものがある。 ・ 全国平均より下回っているものがある。	ている。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している	名称を説明させたり、アサガオなどの両性花と比較しながら観察し、その共通点としておしべとめしべを見つけたりする学習活動の充実。 ○加熱をしなくても水が蒸発する場面を探したり、低い温度で水が蒸発する場面と沸騰で蒸発する場面との差や共通点を整理したりすることで、状態変化を概念的に理解する学習活動の充実。

◇結果について

本校では、多くの児童が食事や睡眠といった基本的な生活習慣を身に付けています。規則正しい生活習慣の形成は、学習意欲や気力、体力の向上につながる要因として子どもの健やかな成長に必要なものです。ご家庭での日々の声掛けや習慣づくりによって、学習意欲が支えられ、学習環境が整えられていることがわかります。心身の安定は、「自分にはよいところがある」という自己肯定感の高まりにも効果的に作用していると思われます。「さっぽろっ子『学び』」のススメにある「まほうのかいわ」を合言葉に、子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める声掛けを続け、「学習・運動・生活」習慣づくりを継続していただきたいと考えます。

本校児童には、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりする」といった、見通しをもちながら主体的に学ぶ傾向が見られます。一方で、「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」といった、学習の「振り返り」に関わった課題が見られました。本校では、「学びとつながり、学びをつなげる子」をテーマとした授業研究を行っています。今年度は、「学びの変容の見取りと手立て」を重点の一つとして、「振り返り」の充実を研究しています。日常的な授業づくりや校内研修を通して、「振り返り」が次へとつながる能動的な活動となるよう探っていきます。

タブレットの活用にも積極的に取り組んでいます。文書やプレゼンテーションの作成、情報の収集・整理といったことを、子どもたちが抵抗なく行えるようになり、学習道具の一つとして扱えていることが分かります。また、タブレットのアプリを使うことで、考えを共有したり比較したりする活動も適宜行われています。協働学習支援ツールの活用については、今後の課題としていきます。

引き続き、学校だよりや学年だより、教育説明会、HP、懇談会などを通して子どもたちの様子をお伝えしていきます。学校と家庭が連携し合い、子どもたちのよさを伸ばして課題を改善していけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。